

中国 河北省の生鮮ナシ生産量は10%減少

[FreshPlaza 2025年11月12日](#)

河北省の生鮮ナシ生産量は10%減少したが、インドネシア向け輸出は回復

2025年の生鮮ナシの収穫は10月に終了した。河北省では今年の生鮮ナシの総生産量が前年に比べて大幅に減少した。主な要因は、鴨梨及び雪花梨の生産量が50%減少したことであり、皇冠梨の生産量への影響は比較的小さかった。生育期の天候条件により果実の表面の傷が多くなり、販売可能な収量が減少した。

生鮮ナシの栽培、加工及び輸出を一体的に行う河北雄瀚農産品会社によれば、今シーズンの仕入価格は「高値で始まり、安値で終わる」傾向を示した。同社の李営業部長は、「収穫の初期には価格が高かったが、シーズンが進むにつれて徐々に下落し、市場全体の業績は予想を下回った」と説明した。(以下「」は同氏の話)

同氏は、今年の在庫の状況に基づき、前シーズンの市況の低迷と現在の経済環境を背景に、卸売業者と流通業者は概して在庫水準を低く抑えていたと指摘した。「一方で、収穫期の後半には価格が下落したため、果樹農家は販売を控え、価格の回復を期待して果実を倉庫に貯蔵した。初期の仕入価格の高騰と市場の不確実性により、一部の輸出企業は仕入れに慎重になり、例年に比べて初期の貯蔵量が少なくなった。」

輸出は今年これまでに一時的な停滞を経験した。李氏によると、インドネシア政府による中国の検査機関のCOA(分析証明書)発行機関としての認証が6月30日に失効し、再認証が完了したのは8月中旬であった。このため、7月中は生鮮ナシを含む中国産の果実及び野菜のインドネシア向け輸出がほぼ停止状態となった。「この出来事は同月の出荷量に直接影響を与え、同時期の国内仕入価格にも一定の影響を及ぼした。」

その後、検査機関がCOA発行機関として再認証されたことで、河北省産生鮮ナシのインドネシア向け輸出は出荷量と価格がいずれも上昇し、成長を回復した。インドネシア市場の需要は回復しており、中央アジア及び中東からの需要も今年は大幅に増加した。

李氏は、国内市場の需要は鈍化しているものの、輸出分野で予期せぬ政策変更がなければ、生鮮ナシの販売は全体的に比較的安定して推移すると見ている。「現在、弊社の輸出は引き続き成長しており、特に南米、中東及び中央アジア市場での需要が旺盛で、好調な実績を上げている。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)